



鉄のふしぎ? 博物館

■22

先月号(5月12日掲載)の原稿を送付した木曜日、担当の記者からメールが入りました。『来週月曜日付けの原稿をお送りいただきまして、大変ありがとうございました。拝見いたしました。天彦(現・天彦産業)の件に触れておられて、ビックリ!! ちょうど、同じ紙面で、同社の樋口克彦会長が、全日本特殊鋼流通協会の副会長として「旭日

画像はカラーと交換しています。

衣川製鎖工業・衣川良介社長

双光章」を受章することに関する文章を載せる予定でしたので(笑)また、ゲラを送付いたします。よろしくお願い申しあげます」

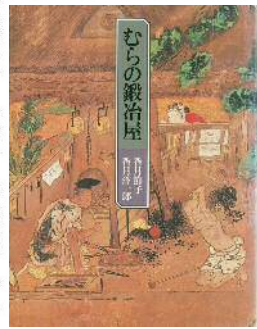
メールを頂いた私もビックリです。明治42年に



天彦の刻印を持つ前挽大鋸

天彦(てんひこ)

滋賀県甲賀郡水口町で、玉鋼で作られた大鋸(おが)の記事を書いたのですが、それをお作りになった企業が



図書「むらの鍛冶屋」

が現在、大阪で特殊鋼の販売を盛大に行っており、早速ホームページにアクセスし概略を調べました。

社員との懇談も行われたとか。現在の社長さんは五代目、樋口友夫氏、ユニークな楽しいブログを書いておられます。

甲賀郡水口町→東大阪市と移転され現在は大阪府住之江区南港に拠点を移されています。受賞された樋口克彦会長は四代目社長で、実父樋口彦三郎氏も中小企業振興の功績により81年秋に勲四等瑞宝章をお受けになったそうです。今年4月には本社を安部晋三首相が訪問され、工場見学や女性

を経営方針とし、得意先様への「お役立ち」を継続しています。天彦の刻印を教えてください。図書「むらの鍛冶屋」には明治末期と思われる甲賀郡の鋸製造業者名が列記され、このうち八里平右衛門、福本九左衛門、樋口彦三郎の三軒が生産量を誇っていたという。巻末は以下のような言葉で締めくくられています。

山畑にかこまれて草葺きの家々がたち並んでいる。そのうちの一軒から稲音が響き、なかをのぞいてみると、火床(ほくぼ)で一徹(いってつ)鍛冶屋が火花をちらして注文の鋏を打っている。この書名である「むらの鍛冶屋」から連想する情景はたとえはそうしたものであろうか。けれども、私達の鍛冶屋をたずねる

【参考資料】

- ▽むらの鍛冶屋 香月節子・香月洋一 平凡社 1986年
- ▽天彦産業ホームページ <http://www.tenhi.co.jp/chara/index.html>
- ▽日刊産業新聞 2014年5月12日4面